



2024 年度第 5 回理事会

議 事 録



公益社団法人 日本クレー射撃協会

2024年度 第5回理事会

議 事 録

1. 日 時 2024年10月28日(月) 午前13時00分～午後16時00分

2. 場 所 JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE 3階 会議室8

3. 出席者 出席理事18名、出席監事2名

会 長(議長) 不老 安正(福岡)

副 会 長 丸石 博(島根)

夏樹 陽子(一)

中園 功一(鹿児島) 審査担当理事

常務理事 大内 智喜(長野)

清水 光一(本部) 強化委員長

理 事 大山 重隆(埼玉) アスリート委員長

相馬 正(青森)

原田 光男(栃木)

瀧根 隆幸(富山)

古川 竜則(京都)

長谷川雅彦(山口)

堺 良雄(福岡) ※WEB

小川 晶子(一)

小高左起子(一)

ヒロミ(芸文)

池内 数哉(大阪)

松島 愛(日本ライフル協会) ※WEB

監 事 萩野谷豊光(茨城)

坂本 昭一(佐賀)

(欠席理事) 増田 正起(静岡) 専務理事・総務委員長

布野 兼一(長野)

4. 陪 席 多久和寿稔(競技委員長)

中根 逸朗(審査委員長)

大江 直之(事務局顧問)

坂本 強(事務局次長)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数 20 名中 18 名の出席となり、定款第 43 条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立。(出席理事 18 名・うち Web 出席 2 名。欠席理事 2 名)

6. 議長挨拶及び議事録署名人確認

不老会長：私どもは、9 月、10 月、メインのいろいろな大きな事業を行ってまいりました。特に 9 月 26 日から 4 日間、国スポ佐賀を行いました。今まで国民体育大会という名称でしたが、今年度より国民スポーツ大会という名称に変わりました。それから 10 月 19 日、20 日、福岡県立総合射撃場で全日本選手権を開催いたしました。初日は非常に天候が悪く、75 個撃ちが 50 個撃ちとなりましたが、翌日は素晴らしい天気になりました。チャンピオンになられた 2 名の選手は本当に頑張っ
て素晴らしい競技をされました。誠にありがとうございます。

ただ、この 2 日目が終わった時点において、前会長が SNS において、ISSF のルールに従っていないということで、非常に中傷的な投稿がありました。何がどうあったということはなかったんですが、私が思うには、恐らく初日の 75 撃ちが 50 個撃ちになったということだろうと私は察しておりますが、これは、われわれは ISSF ルールに従って行っているだけで、主管はあくまでも日本クレーなんです。ISSF が主管する事業ではございませんので、その時の天候状況が大変なことになれば、競技も若干変わってくるわけです。何も前会長から指されるわけではないわけですので、私どもは非常に迷惑だなと、そのように思っておるところでございます。

それから、今、2026 年のアジア競技大会について、頻繁に名古屋の方に打ち合わせに行っております。26 年のアジア大会については、われわれクレー射撃競技もいい成績を収めていただきたいということで、来年からこの競技会に向けての選考会もあり、しっかりと選手の育成に努めてまいりたいと、そのように思っておるところでございます。

では、私の後、佐賀国スポについて坂本佐賀県会長より一言ごあいさつをお願いしたいと思っております。

坂本監事：会議前の貴重なお時間を頂きまして 2024 佐賀国スポが終わりましたことのお礼を一言述べさせていただきます。役員の皆さまにおかれましては、ご尽力いただいた結果、成功裏に終わらせていただきました。5 年ぶりの開催ということで、行き届かぬ点や小さいことはいろいろあったかも分かりませんが、無事に終わりましたので、この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

不老会長：定款第 47 条の規程により、本理事会の議事録については、議長を務める私と、萩野谷監事、坂本監事、両名お願いいたします。

7. 報告事項

(1) 競技委員会関係（坂本事務局次長）

10月8日に実施したワールドマスターズゲームズ2021関西兵庫実行委員会とのWEB会議において、来たる2027年のワールドマスターズの会場については、当初2021年の計画通り、岡山県クレ射撃場で行いたいという報告を受けた。

地方公式大会におけるクレセットの厳格化について、選手の方から「地方公式や、射場によってはクレのセットが正確にされていないのではないか」という声が本部にたびたび寄せられている。成績はランキングや段級位にも影響する。本来クレセットは射撃場に任せるのではなくて、主管する地方協会、部会がセット員を用意して、基準に沿って行わなくてはならないので、いま一度地方協会様、部会様に対してクレセットをきちんと実施してくださいという文書を出させていただいた。少し不慣れでなかなか分からないとか、困ったようなことがあれば、競技委員会、審査委員会で協力をさせていただく。

本部公式大会の成績ですが、前回の理事会から4つの大会がありました。全日本女子選手権大会のトラップ種目は宮坂七海選手が連覇しました。全日本シニア選手権大会はハンデ無し125個撃ちの勝負をしたいというシニア層からの要望を受け今回復活させました。第78回佐賀国スポ大会は5年ぶりに行われ総合団体優勝は東京都、2位埼玉県、3位北海道の結果でした。全日本選手権大会はトラップ種目田村道英選手、スキート種目折原研二選手が共に昨年に続き連覇しました。

(2) 強化委員会関係（大江ハイパフォーマンスアシスタントディレクター（HPAD））

アジアンショットガンカップ2024は、4月のカタール以来5カ月ぶりに強化委員会から選手を派遣しました。結果、トラップMIXで3位銅メダルを獲得しました。田村選手と宮坂選手は、国際大会初参加で銅メダルを獲得できたというのは、非常に本人たちにとっては良い経験になりました。スキートMIXは予選の結果、戸口選手、小島選手のペアが、クエートのALRASHIDI Abdullah ペアに勝ちまして、スキートMIXのほうでも銅メダルを獲得することができました。

2月にアミールグランプリがカタール大会でされます。強化委員会としては、アミールの大会に選手団を参加させたいということで希望が出ています。

4、5、6月に行った選考会の結果、強化指定選手、強化育成選手、それとネクスト選手という3カテゴリーに分けて強化合宿等を行っているところですが、育成選手のトラップ女子種目の宮坂七海選手につきましては、7月～10月に女子のカテゴリーである114点を何回もクリアして、全日本選手権でも一般男子に混ざって3位という好成績を収めたということ、強化委員会では高く評価しており、10月20日の強化委員会では宮坂七海選手を強化育成から強化指定に昇格させたいと決まっておりますので、理事会で了承をいただければ、強化指定選手のほうにカテゴリーを昇格させたい。スキート男子種目の折原研二選手は選考会の結果は、基準点を超えることができなくて、強化育成選手のカテゴリーでした。国内合宿成田での118点、記録会の成績、それと全日本選手権大会をまた優勝されたという顕著な成績を収めておりますので、宮坂七海選手と同様に強化育成選手から

強化指定選手にカテゴリーを昇格させたいというのが強化委員会の提案があり、折原研二選手につきましても、理事会の了解を得られれば、カテゴリーの昇格をさせていただきたいと考えております。

もう1点、最後にまだ流動的な話なんですけど、強化指定選手1名から、一身上の都合により辞退するという旨の辞退届が提出されて、強化委員長が預かっている形になっております。この処理、対応につきましては、今後会長や顧問弁護士に確認の上、対応したいと考えておまして、詳細につきましては、また追って理事、監事の皆さんにご報告申し上げたい。

もう1点ですが、強化戦略プランの総括をしなくてはならないことが、JSCの協働コンサルほうから指導を受けております。なぜかという、今、4月清水強化委員長になってから強化戦略プランを上書きしたバージョンアップしたものを提出しておりますが、2023年1月29日付けで作った、前任者の梅津さんが作った強化戦略プランの総括がまだJSCに提出されていないのに、総括をする前にプランが更新されているのは、クレーさんルール違反だというご指摘を受けまして、梅津さんが作成したプランを総括したものをいったんJSCに出さなければいけませんので、総括案を強化委員会のほうで作成しました。

まずは、目標としましては、パリオリンピックに出場することができませんでした。マイルストーンであるワールドカップの成績も男子8位入賞を挙げていたんですが、結果的に戸口選手が1人出て、49位という結果になったと。アジア大会につきましても、8位入賞から遠い20位で終わったと。アジア大陸選手権もクォータ・プレイスは獲得できずに21位で終わったという結果を載せさせていただきました。アゼルバイジャン合宿では、戸口選手の成績、あるいはレベルというのは、確かに私の目から見ても上がったことが、目で見て分かりました。ただ、レベルは上がったけれども、クォータ・プレイス獲得には至らなかったというのが、正直なところです。

あとは、協会内では強化選手の選考方法や決定過程に疑義が生じまして、選手選考委員会をつくって予選をやり直したことは、皆さんご存じだと思いますが、事態を重く見た理事会は選考をやり直して、選考前はスキート男子の戸口さん1人だったんですが、選考後は6名の選手がエントリーされました。その後、選手選考後のトレーニングにつきましては、当時の梅津さんや永島さんとの信頼関係が著しく損なわれていましたので、パーソナルコーチに依存せざるを得なかったんです。ですので、強化委員会が主導する形ではなくて、パーソナルコーチに依存した形での調整を余儀なくされました。また、ハイパフォーマンスディレクターとナショナルヘッドコーチと、そのパーソナルコーチが常に連携連絡を取り合って、情報を共有したりするようなことが、どうしてもできなかったんで、その点は非常に反省点として、大いに挙げられています。それと、ユニバーシアードとかジュニアワールドカップ大会への派遣も、事業計画にそもそも含まれていなかったのも、もともとのプランの構築方法がずさんであったということがいえないと考えております。国際大会につきましても、戸口選手1人を派遣するようなことを繰り返すような状況であったということを経験として書かせていただきました。それと、海外コーチの招聘につきましては、ハイパフォーマンスディレクターの責任とも言えないんですが、コロナの影響により優秀コーチで、当

時設置していたトラップ種目のケビンとスキート種目のエミンを、日本に招聘することができなかったことがあります。その後、アゼルバイジャン合宿でエミンのところに、戸口選手を送ってレベルアップは図れたんですが、クォータ・プレースを獲得するまでの変貌には至らなかったというところが正直なところです。

また、NTC 事業におきまして、映像分析スタッフを配置して、専用機材を購入して強化選手のデータを取って、トップアスリートとのパフォーマンスの比較を行いましたが、映像分析スタッフが都合で離脱してから、その後、後任者を賄うことができなかったのも、ここの部分についても、途中で終わって、そのままになってるところがありました。ですので、この点はこれからハイパフォーマンスディレクターが清水さんになって、これから NTC を後任のところを決めるところなんですが、スポ庁の指定をこれから受けたらこの途中で終わってしまったことも継続して取り組みたいと考えております。ターゲットアスリートは対象選手 6 名になりましたけれども、結果的に、最後のカタール大会でクォータ・プレース獲得には至らなかったのも、強化委員会としては、解体的出直しを図らざるを得なかったということで、今、ハイパフォーマンスディレクターが清水さん、ヘッドコーチが中山さんということで、新体制で臨んでいるところです。

ですので、ロスオリンピックに向けた目標としては、これは梅津さんのプランと同様なんですけれども、各種目、トラップ男子は、今、抜けているんですが、トラップ女子とスキートの男女については、8 位入賞を目指して取り組んでいきたいという形での一応総括を強化委員会で行って、理事会の了承が得られれば、これで協働コンサルのほうに提出させていただきたいと考えております。

清水強化委員長：今までの強化というのは、一定数を撃って、ある成績が出た方を抱え込んで育てていくやり方でした。今、強化戦略プランを大江さんからご説明いただきましたが、とあるスキートの選手を 1 点集中的に強化してメダリストにする。これ、やり方としては有りかとは思いますが、ただ、そのやり方で失敗した。すなわち、1 点集中でやって、その 1 点がとれなかったために、QP 獲得とならなかった。このカテゴリー一昇格の意味は、カテゴリーが下の選手でもそれなりの実績を出せば上に上がれるんだというのが 1 点と、もう 1 点、いつ下から選手が上がってくるかも分からない状況があると、上位にいるカテゴリーにいる選手は逃げを図らないといけないと。すなわち、競争原理を働かせたいということなんです。いつ、下から上がってくるかも分からない。上であぐらかいていたら、下から寝首をかかれるよと、こういうふうな競争原理を強化の中で機能させていきたいというところが目的です。決していい点を撃ったから優遇しましょうという話ではないので、その点をご理解いただければと思っています。

大山アスリート委員長：5、6 月で選考会を行いますが、その選考会要項の中に、通った者は合宿や記録会で基準点を撃ったら上げるという項目が載っていたと思うんですけど、選手は基準点を撃ったらすぐに評価をもらいたいので、できれば、すぐに強化選手の指定をあげれたらと、選手目線をお願いいたします。

大江 HPAD：強化委員会の編成が遅れたことで決定が遅れたということは、正直おわびしたいと思います。先ほど清水委員長が補足したとおり、やはり強化委員会はいつも俺たちを見てくれていると。いわゆる強化合宿の記録会であろうが、本部公式とかであろうが、ちゃんと競技に集中して基準点を超えることを目指してほしいということも、もともとの選考会の実施要項の中にはうたわれていましたので、今後大会が、あるいは強化合宿の記録等で成績を超える選手がいたらすぐに直近の理事会に報告して、昇格ということは努めていきたいと思っております。

不老会長が宮坂選手と折原選手のカテゴリーの昇格について議場へ確認し了承された。

不老会長：次に強化戦略プラン。カタール大会4月までは橋本委員長が関わっておられて、われわれの意見は通るところではなく、前会長の言うがままに行ったわけでございます。結果的には、クォータが取れなかったということになったわけですが、報告は報告で、私の方がしなくてはならないということでございますので、この戦略プランについての報告は、私の方でさせていただきたいと思っております。以上でございます。報告事項2については、ご了承いただいたものといたします。

(3) 総務委員会関係

坂本事務局次長：普及・振興の一環として、今回シミュレーター体験イベントを、2件対応していきたいと考えております。

1つ目が11月17日です。山梨県スポーツ協会・山梨県クレ射撃協会から「スポくる」のイベントの中でという実施したいという依頼があり、場所が山梨県の小瀬スポーツ公園の室内ブースでシミュレーター2機使ってやろうということで考えております。

2つ目は、既に3回ほどやりましたけれども、助成金のご支援をいただきながら普及・振興として進めている ENEOS 様からの支援事業です。今回4回目ということで、以前より京都府クレ射撃協会の古川会長から、西の方でやりたいというお話がありまして、12月8日、兵庫県の総合射撃場でこれもシミュレーター2セットを使用して行います。

古川理事：昨年来、京都府のほうでシミュレーターのことを、本部にお尋ねしたところ、今回このような運びで実施させていただくこととなりました。一応京都府となっておりますけれども、近畿全体の取り組みとして、全ての協会様にご案内申し上げて、近畿全体の射撃人口の底上げの起爆剤、契機にしたいと思っております。

坂本事務局次長：U25 発掘育成合宿を普及振興活動として実施します。以前の toto 発掘育成合宿から名を改めます。目的としては、発掘という言葉を重ねて受け止めて、全国各ブロックで開催して、埋もれている人財を発掘するということ

にテーマを置きながら実施します。関東は大井、それから中国四国で今、岡山、それから九州で福岡、などを中心に。東北のほうは、暖かくなってから。合宿は月に1回ぐらいのペースで考えています。少数精鋭というか、その中から本当に可能性のある人が出てきたら、強化委員会と共有して、その人をネクストアスリートのほうに引っ張り上げてもらうとか、いろいろ連携が必要かと思います。指導者は、大山さんと横内さんの支援をいただけることになっております。プログラムについては、撃つだけでなく、社会人としての基礎、ルールも含めた座学、こういったものもきちんとやるということで、まずは始めてみて、いろいろ課題が出てきたら、また関係者の方と相談させていただきながら変えていくということも視野に入れております。

大江 HPAD：事務局からもう1点。本日専務理事総務委員長増田さんが法事で欠席ですが、総務委員会のメンバーが今、委員長1人です。それで、副委員長と委員の補充についていろいろ検討されてるんですが、その前に、本部事務局における業務分担であるとか、事務手続き内容を精査したいということで、まず事務局の役割分担を明確にしたいということ優先したいので、本部事務局の坂本、上久保、杉野、齊藤、この4人を委員として加えさせていただいて、総務委員会として、今、言った内容に取り組みたいということで、理事会に報告してくれと言われておりましたので報告します。

不老会長：ただ今の総務委員会報告について何かご質問等ございませんでしょうか。

池内理事：シミュレーターのイベント、12月8日京都さんが担当されてやられるということですがけれども、近畿全体で協力してやろうと。これは、全然問題ないと思うけれども、12月8日の日曜日は、和歌山公式がある。京都府協会さんと、公式を主催する和歌山協会さんとの連絡や打ち合わせをやっているのか。

古川理事：和歌山の宮本会長のほうには、12月8日ということでお伝えしています。参加者を募っていただきまして良かったら広報等々をお願いしたいと宮本会長様のほうにはお伝えをしております。シミュレーター体験は一般の方になりますので、公式戦で選手の方とのバッティングっていうのはまずないかなと考えております。

大山理事：アスリート委員会より数名この12月8日の時に協力として参加してもらう予定でございます。井川選手を筆頭に1名か2名行ってもらうようお願いしておりますので、その時はよろしく願いいたします。

(4) 名古屋アジア大会について

清水常務理事：現状をざっくり申し上げますと、2026年の4月に会場が出来上がります。2026年の、それから5カ月後の9月に本番を迎えます。本番までの間にテストイベントをきちんとというか、本当に機械的な動作の部分だけ、ライフルさんなんかいろいろ電子機器を使いますので、その電子機器のチェックに重きを置いたことはやりますという話になっています。

冒頭からいきなりだが、東京オリンピックをお手伝いさせていただいた私の感触でいうと、この2026の大会、私、できないと思っています。その根拠は、やはりまず予算的な乖離がものすごくひどいと。スキートレンジ、それからスキーターのトラップアンドレンジ。一番右端がトラップレンジになります。このセンター3つに関して、スキート、トラップ共用斜面にするために、今後工事をしていきたいと思いますという流れになってます。すなわち、大会運営はスキート4面、トラップ4面で運営することができますという射場にする予定であります。

これは射撃に特化した資料になるんですが、いろんな競技、例えばゴルフにしてもサッカーにしてもテニスにしても陸上にしても、根本的に予算が全く足りない状況で、全ての競技を合わせて予算請求を160億円ぐらいで見積もってるんです。ただ、実際にお財布の中には60億円しかありませんっていう話になってます。例えばこの何十億円という誤差っていうのは、非常に埋めるっていうのはなかなか難しく、例えば1億、2億の単位であれば、NFの努力であつたりとか、人海戦術であつたりとか、いろんなことで埋める可能性もゼロではないんですが、これだけ予算の乖離があると、これ、何に影響してくるかという、私が今、一番懸念しているのは、このアジア2026の大会に、NFから、われわれの競技団体のほうから少なく見積もっても、だいたい35名から40名の方をレフリーであつたりとか、あと競技運営であつたりとかそういったところでお力添えをいただきたいと組織委員会から要望を頂いておりますが、まず、予算がないことで、議論が全く前に進展していません。

例えば私が組織委員会としてNFの大江さんに申し訳ありませんが、2026年の9月からお手伝いいただけませんかとなった時に、当然NFの大江さんの立場からすると、いつ、どこで、何のお手伝いを幾らでやればいいんですかって話に当然なるんです。ですが、そのいつ、どこで、誰が、何の仕事を幾らでやるかっていう条件すらまだ整っていない状況です。この状況の中、2週間ほど前ですけども、実際にボランティアであつたりとか、あと役員の方をNFのほうからご紹介いただけませんかという文書がもう配布されている状況なんです。本来これ、オリンピックの時であれば、この2年前になった時っていうのは、ボランティアの方であつたり、役員の方であつたり、例えばレフリーの方であれば、今、画面上にいらっしゃる多久和さんにご相談させていただいて「競技に携わる役員の方を見繕っていただけませんか」ということを、日当幾らでっていう議論がなされていて、その話が前に進むところなんです、今のところ、そういった議論が全くなされていない状況にもかかわらず、NFに協力を求められていると。

私はうまく行かせるために出向というか、お手伝いをさせてもらってますが、やはり軸はNFにありますので、これ、NFのほうに、何らかの不利益がかぶるような形を、首を縦に振って分かりましたと言える立場ではないです。

具体的にクレ射撃にどういう影響があるか。このまま進めばこれは、あくまでも射撃場の施設面のリスクについて、お話をさせていただきます。ここからですけども、ざっくり私のほうで説明させていただいて、視察に、一緒に今、組織委員会のほうで仕事をやってる大内さんのほうから説明させていただきます。

これ、トラップの後方から選手が発射する方向の画像になります。これ、リアルに、今の画像です。この背景には、樹木と土の表面が混在していると。このままの状態でも国際大会をやってくださいというふうに、今の愛知の組織委員会はおっしゃってます。

私は、当然これ、立つ射台によって、セットによって全く背景が統一化されていないので、これはちょっとあんまりですと。せめて国体でも、今やってもらっているように、先日の佐賀でもあったように、バックは緑の背景で統一とか、時間帯によってやっぱり反射なんかあるんですけど、さすがにこのままやるっていうのはいかなものかっていう話は言っています。あと、フィールドも、これ地面のグラウンドのことです。これもこの状態のままというふうにおっしゃっています。要は芝の整備もしなければ、土はむき出し。石が見えてるところは石がむき出し。「このままの状況でやる」とおっしゃるので、これもちょっといかなものですかという話はさせていただいています。

大内常務理事：愛知射撃場は一番右のほうのトラップ射台、そちらのほうに黒いシートが貼ってある、その上に緑のネットがあると思うが、そこが天候によっては、光って途中で皿が消えてしまう。そういうところがどうなのかと思ひまして。あと、特に右に出る皿、それが天候によっては全部消えてしまう。そういうところが問題なのかなと考えております。あと、下の部分、そのワッズとか皿が落ちているところ、あそこが掃除をできないのかと思っているが、そこを少し段にして、ぼろ隠しとは言わないですけど、そういうことができないのかと思ひしております。

清水常務理事：もともとこの大会というのは、開催都市契約ってあって、やりませんかっていうところに愛知県が手を挙げていますので、この範疇（はんちゆう）に関しては、本来は愛知県が責任を持ってやらなければならないと。それで11月21日から、先ほど海外の成績について、大江さんから説明いただいた時に、アジア射撃連合という名前が出てきたと思うんですが、そちらの、この愛知の大会担当の方が11月21日から23日まで日本に来られて、この射撃場を見られて、組織委員会としては、この射撃場でいかがですかと言って、射撃連合の方が。分かりましたこれで行きましょうってやってしまうと、これになってしまうんです。

さすがに、これはないので、今、組織委員会といろいろ調整を図ってるんですけども、こういった案ではどうですかって代案が出るわけではなくて、ただ、お金がありませんってその一言で終わってしまうので、さすがにそれは、ぶしつけというか、もう少し何か考えないといけないと考えているので、皆さまのほうと意思の統一をさせていただきたいところが、屋根の問題もあるんです。この屋根の後方に観客席を造る予定ではあるんですが、皆さんのISSFの動画なんか見られると思うんですが、当然ひな壇になった観客席をこの後ろに造るとなると、選手の全身も見えない、もしくはカメラ位置によっては当たりはずれも見えない位置に観客席を造って、なおかつ国際大会ですので、放映権というものが結構ややこしい問題が絡んでまして。この屋根があった状態だと、もしかすると放映権の問題、これ、屋根全部撤去しろっていう話になる可能性もあるんです。撤去に

なった場合、大会終わってこの会場を一般の方が利用する時にものすごく不便します。そこでもお金がかかるので、屋根は撤去しませんとかっていう話が、全然前に進まないような状況もあるんです。

結論、皆さんと意思統一を図っておきたいというところが実はあって。これ、いろんな諸問題、細々ありますが、このアジアの組織委員会っていうところ、ほとんど行政職員の方で担っている環境ではあるんですけども、ほとんどが予算の、お財布を握っているところっていうのは、愛知県のスポーツ局の競技施設課っていうところがお財布を持ってるんです。ないものを無理くり出してくれっていう話ではなくて、少なくとも選手目線で考えた時に、完全とはいきませんが、斜面によってA面で撃つ選手にはよく見える、片やC面の選手は、全く右の皿は見えない。こんな環境下で国際大会をやるっていうのは、私はあり得ないと思っていて、どうすればこの問題、打開できるかって考えた時に、私は実は理事会の議事録、こういった議論をNFではしていると。そういったわれわれも、アジアの射撃連合の傘下とは言いませんが、日本のクレ射撃協会として、選手の公平性も担保できないような大会に協力をしないとはいませんが、もう少し前向きな議論をしていただきたいというところがあって。私もいろいろ手は尽くしたんですが、なかなか前に進まないの、この一番上に書いてあるNFからの指摘事項、これ今、理事会でお話しさせてもらってますので、こういう具体的問題について、今後、お金がないのは重々承知だと。ただ、このままお金ないからやらないよではなくて、お金がないけれども、こういった形で進めることができますか、NFさんであったり、われわれのほうからも、こういった形でできるかもしれないので、ここ議論いただけませんかとか、もう少し丁寧な議論を進めていきたいというところがあります。

まずは、先ほど申し上げたこのバックストップ、後ろの背景の部分の整備、きれいな緑の、東京五輪のようなネットを立てて、何十億円もかかるようなものをしろとは言いませんが、今のままやるっていうのは、ちょっとあまりにもひどいというところがまず1点。それから2番目の、あとTOSV等の主要居室の整備。これは、大会の運営業務に関わってくるんですが、先ほど申しました40名弱の役員の方をNFのほうから出していただきたいといった時に、その方々が役務に携わる場所の空調が簡易的なスポットクーラーであったりとか、要するに安かろう、悪かろうで、ものすごく過酷な現場になるリスクがあると。そこもきちんとどういった環境で、外気温が何度か、内気温がこれぐらいの室温になりますぐらいの条件は出していただきたいというのが一つ。

それから、あと宿泊なんですけれども。愛知の射撃場っていうのは、ものすごくアクセスが悪いところにあります。近隣には宿泊施設がありませんので、今のところ、想定としては、三河安城から愛知の射撃場まで、片道約トヨタ、自動車の。出勤時間なんかはタイミングがもし当たってしまうと、片道速くても90分ぐらいかかるんです。90分ぐらいの時間をかけて、朝6時ぐらいに選手が着いて、その前には役員、入ってないといけないので、90分かけて朝6時から勤務するのに、朝4時に出ると言うんですかと。夜も競技終わって片付けがあって、夕方の7時、

8時に帰って、晩ご飯食べて、お風呂入って、次の朝4時。これ、9日間続けることはできないと。そういったところもこの宿泊についてです。あとは、皆さん、お手伝いいただく方の謝金、これを日給にするのか、きちんと時間給にするのか、そういったところも全く提示されてませんので、提示してほしいと。

最後に締めくくりとして、これらの細々したところを組織委員会の中には、いろんなセクションがありますんで、そのセクションから、人にものを頼むんであれば、まず自分たちはこういうふうにやりますっていうふうな条件ぐらいは出してくれというところをこの理事会の中でお話をさせていただいて、皆さんのご同意がいただけるのであれば、私は県に宛てたいと、かように思っていますので、よろしく願いいたします。

あとはセキュリティというのは、保安の部分。空港は大内さんが今から主にお手伝いいただく部分です。さっき言った成田にもし選手が入ってきたら、関空経由で来たらどうするのかとか、そういったところの手配です。あと、宿泊は、皆さん、お手伝いいただく方が来たとしても、もともと名古屋港に豪華客船を止めて、そこに7,000人泊まれる客船を入れましょうっていう計画があったんですが、船っていうのは、1等室、2等室、3等室ってありますんで、ですので1等、2等、3等って公平性が担保できないじゃないかという形になったんで、7,000室の計画がなくなってしまったので、他の競技も合わせると、恐らくは愛知県内のホテルをフルに予約したとしても、選手、役員数には足りないんじゃないかと、こういう話にもなってます。

そういった諸問題、いっぱいあるんですけども、もう少しきめ細やかな議論をスピーディーにやらないといけないかなと。このまま進めていくと、NFの負担は多分相当なものになると。6月なんで、当然公式もやってますし、ちょっとそういったところを考えると、早く山を動かさないとまずいというふうに、私は思っています。

不老会長：今のアジア大会の進捗状況を担当のほうからご説明いただいたわけでございますけれども、まだこれ、初期の段階なんです。それで、最終的には政治的な解決もしなくてはならないという構えは考えておるわけですが、それでライフル協会の松丸会長と2人で話し合いをしました。会長のほうは、私の力になるよということで、どれだけの力量を発揮されるか分かりませんが、ライフル協会の会長が、この件については、前向きに検討してくれるということですので、同時に担当も含めて話し合いを持って、前のほうに進めていきたいと、そのように思っております。まだまだこれは、初期の段階ですので、これから難題がたくさんあるわけです。全部お金の問題なんです。愛知県のほうは、実行委員会のほうが出し渋りをしておるわけなんです。ところが、われわれは、待ったなしに競技場の必ず必要なものを今、言っているわけなんです。それが、ボードに載せられてないということで、非常に困っているわけですが、また、この進捗については、皆さま方にご報告をさせていただきますので、よろしく願いをいたしたいと思えます。

(5) その他、アスリート委員会関係について

大山理事：アスリート委員会から報告です。第 78 回国民スポーツ大会佐賀における、監督不在における群馬県の失格について。選手は元気なのに、監督が具合悪くなって、入院してしまったと。それに対して、監督が不在だから記録は認めませんということになってしまったんです。クレー射撃、生涯スポーツであり、年齢の高い監督さんとかいると思うので、今後病気だけではなくて、事故等いろいろあると思うので、これを機に改善策を要望したいと思います。

大江 HPAD：補足します。具体的に言うと、2-2-1 方式によって初めて行う国スポだったのですが、群馬県の市川監督が結構ご高齢の方だったんですけど、有資格者がどうしてもその人しかいないということで、この方が監督としてエントリーされていたんです。もともと持病をお持ちだったけれども、佐賀に行く前に、一応担当主治医のほうから、大丈夫でしょうというお墨付きをもらって参加されてた。

ところが、1日目の昼までは射場にいたが、体調がおかしいからホテルに戻って病院に行くってことということで、お昼のバスに乗って、自分のホテルに戻って、町医者にかかったら、いろいろと検査をされ、数値が異常なものが出たんで、こんな小さい町医者じゃなくて、紹介状書いてあげるから、明日県の大い病院で診てもらいなさいと言われたということで、2日目の朝、こういうことだから病院に寄ってから行きますということで、選手たちは「監督、私たち先に行ってます」ということで、選手たちは射場に上がって、2日目の朝、監督さんは、紹介を書かれた病院に行ったということなんです。そしたら、病院のほうで検査したらば、即入院になったんです。もう射撃見なきゃいけないどころの話なんて、あなたすぐ入院しなきゃ駄目という話になって、そのまま2週間入院になったんです。群馬県のトラップ2、スキート2の選手の中で、リーダー格の方が、大会本部のほうにいらっやって、手続きどうすればいいでしょうかっていうことになったんです。そうすると、選手が棄権するっていうことは、病気やけがであり得るけど、監督が棄権するっていうのは、私も長い経験上なかったんで、どういう手続きを取ればいいのかっていうのを、JSP0の本部のほうに、私が電話して、具体的な手続きはどうしたらいいんだっていうことを教えてくれるということをお話ししたらば、監督が不在になった以上、その後の成績は認めるわけにいかないっていう話だったんです。苦肉の策で、2日目だから、競技4日目まであるので、有資格者がまだ1人都合がつくから、手続きこれからやって、最終日には現場に来れるけれども、それでも駄目なのかっていう話をしたんです。そしたら、そもそも監督っていうのは、監督会議で締め切っているから、その後の追加変更を認められないということで、何を言っても、監督不在な以上、要はそこで選手たちは競技に参加することができないから、撃たせるなって言われたんです。その後の競技を続けさせるかどうかっていうのは、NFの判断で撃たせてもいいけれども、その記録を公式記録として認めるわけにはいかないっていう非常に強い話だった。どこにアスリートファーストがあるのかと思って、かなり食い下がったんですけど、残念ながら日本クレー射撃協会は、国スポの主管団体の主催じゃないんです。主催はJSP0だから、主催者のファイナルアンサーだって言われたら、逆らえない。

、おけ
、合悪
、認めま
、年
、い
、ポだ
、格者
、一さ
、一応
、てた。
、って
、て、
、こ
、院で
、病院
、す」
、書か
、ば、
、たす
、群
、ほう
、んで
、ど、
、きを
、な手
、した
、いう
、格者
、るけ
、監督
、れな
、枝に
、枝を
、の記
、どこ
、ど、
、主
、い。

、丸石さんとか、あるいは競技委員長、審査団長に報告して、群馬県の方々にそのままの事情を、私も立场上現場では総務委員長だったので「コンタクトパーソンとしてJSP0とやりしたけど、結果的には、不本意な結果に終わってしまった」ことを、チームリーダーの青木さんにお話をさせていただきました。ただ、どうされますか、最後まで撃たれますか。あるいは今日で切り上げてもう戻られますか。これ無理強いはできなくて、群馬県の選手団のほうで、お決めいただきたい。ただ、個人的には、NFのほうの、例えばランキングとか段級位の申請をしてる方がいるので、NFとしては、大会の出た記録は参考記録として載せるけれども、セットどおりのクレーを撃ってるわけですから、その記録を段級位とかランキングには反映させますと伝えたら「最後まで撃って、表彰式も出て帰ります」と言ってくれたので、非常に頭が下がる思いでした。

別に、捨てぜりふを私、言ったつもりはないんですけども、先ほど大山さんが言われたとおりで、実はこういうレギュレーションがあるんです。監督に不正があった場合、監督を交代させて、監督を交代させられなかったら、競技参加は認めないというレギュレーションがあるんです。おかしくありません？ 不正があったら監督交代、認めてるんです。監督交代が不正があった時には交代は認めて、健康上の理由は監督の交代は認めないって、こんなバカなレギュレーションあるかっていう話をしたんです。ところが、やっぱり前例がない。あるいは、監督が不在な以上記録は認められないということが、やっぱりレギュレーションに書いてあるので、それを優先せざるを得ないということで、最後こちらが折れざるを得なかったということがあって。ただ、例えば、交通事故に遭って、監督が射場に来れなかったら、同じことになるんです。そしたら、助監督連れてこなかったら、みんな参考記録になる。たとえ1位で走ってても。だから、これって、クレーだけの問題じゃないんじゃないですか。国体委員会で取り上げて、こういうことが今後ないように、アスリートファーストって言ってんだったら、アスリートファーストの、いわゆるセーフティーネットを設けるような措置を、例えば代替者が用意できるんだったら認めるとかというような形で認めないと、絶対また同じようなことが、うちじゃなくても他で起きるって言ったんです。これは、きょう、理事会で報告いただいて、ちゃんと不老会長名で要望書を出そうということ現場で決めていますので、直近の理事会で了承を取られれば、その書面をJSP0には出したいと思っております。以上です。

不老会長：今、大江事務局のほうからお話が合ったわけですが、私も現場にいたわけなんです。全く駄目でした。要するに2-2-1というのは、1は選手と一緒になんです。その場では、だから選手が失格すれば、選手も監督も一緒だから、結局選手が出られなかったらスコアは0という感覚なんです。だから、今後の在り方として、今、事務局が言いましたように、代案を少し考えて、こういうような急病が出た場合どうするかということで、その辺もしっかりと、われわれ経験いたしましたから、お話しを進めさせていただきたいと、そのように思っております。以上でございます。

8. 審議事項

(1) 2025年度の本部公式大会について

坂本事務局次長：前回の理事会の時に、来年度の本部公式大会の日程案だけご提示いたしました。会場については開催を希望する地元の協会と射場が連名で申請をしてほしいというお願いをさせていただきまして、4ブロックの理事にご協力いただき申請書を提出いただきました。その内容を踏まえて、競技と総務委員会で検討した結果をご提案させていただきます。

なお、今まで本部公式開催日には、地方公式はこういう地域はやらないでくださいとか、東と西、同じブロック内でぶつからないでというしぼりを入れてきましたが、一昨年あたりから公認射撃場の数も減ってきたとか、射撃場との調整が難しいという話を聞いていましたので、あえてしぼりを入れることなく、要望ということで、地方協会間で話し合いながら、地方の協会様が日程を組みやすいようにご配慮させていただきましたので、ご了解をいただければと思っております。

本部公式の日程ですが、まず、ご提示いただいた内容で、全日本選手権をどこで開催するかを一番最初に配慮しました。2026年はアジア大会がありますが、2027年にワールドマスターズ大会が開かれることになっておりまして、その会場が岡山ということになってます。5月にあるので、2025年ですけれども、しばらく全日本をやっていない岡山で大きな大会をやった方が良さだろうと、競技、審査で決めさせていただいて、その他は、なるべく日程が連続で連続とならないように配慮いたしました。7月20日21日に、弘前がありますけれども、翌年に国スポ青森がありますので、そのプレ大会ということで弘前を入れてあります。全日本シニアと全日本女子は今年成田で開催しましたので、来年は西日本の福岡としました。

それから、11項目目にフェスティバルが入ってますけれども、こちらに関しては、本部公式開催場所を決めた後に、フェスティバル（滋賀国スポ代替え）を開催したいという話が滋賀クレイ協会の森会長、及び近畿ブロックの古川理事からあり、射場は岡山を使いたいということになりました。

(2) 懲罰委員会規程、懲罰規程について、

大江 HPAD：この規程案を作成されたのは、増田専務理事です。多分いろんな団体、あるいは公務員の規程などを見ながらこれを作られたと思いますが、読むだけで1時間かかると思いますので、今日はいったん原案をお持ち帰りいただいて、次回12月の理事会で再度議決を諮りたいと考えております。

不老会長：この懲罰規程については、本日は、決議はいたしません。12月にこの懲罰規程については、決議をさせていただきます。

続きまして、審議事項3の国スポ委員会の設置について

大江 HPAD：以前は競技委員会とは別に国体委員会があったが、委員会が全部で11個もあり統廃合することになり国体委員会を競技委員会に吸収した。しかし国体というのは、JSPOとかスポーツ庁とか他との交渉とかも発生しますし、やは

り国体に関するいろんなレギュレーション、規則とか制度がありますので、そういうものを理解している専門性が問われますから国スポ委員会を、競技委員会のほうから独立させて、専門的に業務を行いたいというのが提案内容です。

不老会長：国スポが毎年開催となります。その前に専門的な委員会をつくっておけば、より国スポがスムーズに開催されるのではなかろうかと思っております。この人選等については、案を出されてそれから決定させていただきたいと思っておりますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

※議長が議場に諮り、国スポ委員会設置が了承された。

(2) ガバナンスコードについて

大江 HPAD：JSP0、JOC に出した自己講評の内容です。

まず、原則 1、基本計画を策定すべきということがあって、2024 年度末までにバージョン 3 を作りたいとかように考えております。財務関係につきましては、財政状況は健全化に向かいつつあります。

管理レベルが実は 1 から 2 に落ちた通知が来ていますが、これは管理の質が落ちたというのではなくて、前回の積み残しで、ものすごい執行残を出ると、評価落ちます。執行残を残さないような形で、レベル 1 への復帰を目指します。また情報開示に努めていますので、強化選手選考関係の事例を丁寧にご説明したいと思います。

不老会長：では、全員賛成ということで、お願いをいたしたいと思っております。では、次に審議事項 5、JOC の進捗報告について、ご審議を賜りたいと思っております。事務局よりご説明をお願いいたします。

大江 HPAD：JOC に調査報告書に関するご報告を提出したならば、7 月 16 日に令和 6 年 6 月 27 日付 R6 回目ク発第 76 号「調査報告書の検証等について」項目 1 の火薬類取締法違反及び項目 3 の寄付金の横領行為に関する警察における捜査等の進展等に応じた本会への報告をなさいと文書通達がありました。

火取法違反については、現在警察の捜査は既に終わって、検察のほうに書類送致されてます。今月末までには何がしか協会に報告があるのかなと思っただけでもまだないんです。

また、パートナーシップの横領行為につきましては、現在当協会から当該協賛企業への資金返納処理が済んでいて、支払い先も特定されて、個人が着服したものはなくて、事件性はないと判断して、警察への相談は取り下げる予定ということにしております。

オリンピック強化指定選手等の強化選手及び強化スタッフ並びに選任講師当の選考基準・選任方法の明確な基準及び手続の策定並びにこれらの本会への報告と。問題発生以降は皆さんご存じのとおり、強化選手、強化スタッフ、専任コーチの選任は、全て理事会承認事項としております。強化選手は明確な選考基準を強化委員会で策定して、理事会の承認を経て決定。選考基準によって選ばれた候補選手を再度理事会へ報告して理事会承認を得てから強化選手として決定

しています。今後はガバナンスコードに基づき、選手選考規程を年度内に整備する予定です。

強化スタッフはオリンピックや有資格者（公安委員会指導員資格や審判員資格）を中心に強化委員会が人選し、理事会へ上程。理事会承認を経て委嘱しています。専任コーチについては、強化委員会が策定した選考理由を含めた当該人物の推薦資料を理事会にて報告し、理事会承認を経て委嘱しています。ということで、密室でやってませんということをしっかり書こうと思っています。

通報窓口の運用状況に関する本会への報告ということで、実は皆さん驚かれるかと思うんですけど、この4月から相談窓口で対応したことがもう既に10件いってるんです。具体的な内容については、細かく書きました。まずパラクレーからの中間決算合算の件ということで、お金のことにすること等についての通報がありましたのが1です。

2番目が、京都府クレー射撃協会の国スポ選手選考に関して、総会で決めた選考基準を理事会で変更しちゃったんで、ちゃんと臨時総会を通さなきゃ駄目よということで、古川さんに対応いただいて、臨時総会でちゃんと追認いただいたということがありました。

あとは兵庫県協会の内容が非常に多いです。入会拒否された人を本部預かり会員にしたことが3番目。4番目が資格停止を受けた方に関することです。資格停止を受けた方が、他の協会の新入会員として登録して公式出ちゃってたということがあったので、それは協会と本人に話して、駄目ですということで、ご理解いただいたということがあります。

あとは、ランニングターゲット部会のモラハラ関係ということで、会長さんとあと事務局の方が、非常に専横的な運営をされていたことをずいぶんと問題提起されまして、結果どうなったかということ、ランニングターゲット部会の団体自治の自浄作用で、会長と事務局担当者が代わりました。ですので、今後そのような問題は起きないだろうと思っています。6番目も似たような内容です。

7番目が兵庫県クレー射撃協会の会員移籍に関する問題。これ、愛媛のこと、確かあったと思います。これも処理済みです。

それと8番目はパラクレー部会に関することです。これは、部会の運営や総会決議など、事務局さんと会長さんでないがしろにしているような内容がありましたので、これについても指導させていただいて、自浄作用を促している最中でございます。9番目、愛知県総合射撃場の上長さん、元上長さんかなんか、非常に失礼な態度を取ったということで、通報がありましたので、日本ライフル射撃協会の協力を得て、これも処理済みとなっております。

最後に岩手県クレー射撃協会が国スポ選考に当たりまして、予選2位の選手をエントリーさせずに、予選に出なかった選手の名前でエントリーさせたということが発覚しましたので、指導いたしまして、予選どおりの順位の方が大会には出たという内容で、実は10件、もう既に対応している内容があるので、これを運用実績としてJOCへ報告したいと思っています。

8番目。理事会の適切化を図ること及び専門的、客観的な視点から業務執行をチ

エックするため、理事及び監事を貴会から独立した法務、財務、経営などの有識者からも選任する役員候補者選考委員会規程等の整備ということで、ガバナンスコードにも書いたんですけど、役員候補者選考委員会規程を、3つポイントを考えて改正しました。

従来は、6名中5人が理事だったんです。役員選考委員会規程を変えて、6人中2人までしか駄目ということにして、過半数以下にしました。それと、委員長職は、外部の方。先ほど言ったとおり、調査報告書を作ってくれた生田弁護士にお願いして、委員長を務めていただきました。

あとは、理事の選考基準を明確化して、基準10項目に該当しなきゃ駄目ということで、恣意的な選考が行われないように可視化したということが、改正ポイントの3つなので、ここは丁寧に回答したいと思っています。

最後、新たに指定を受けるNTC（強化別強化拠点）について、選定方法及び選定の実施に関して公平性と透明性を確保するために、今後実施する、または既に実施した措置（利益相反ポリシーの運用を含む）の本会への報告ということで、伊勢原さんが3月31日で返上したことは皆さんご存じだと思うんですが、新たに指定を受ける競技別NTCについては、公平性と透明性を確保するために、スポーツ庁並びにJOCの指導をいただきながら、原則公募による設定を予定しています。同選定における主な条件としては次の4つを想定してますということで、まずはうちの公認射撃場であること。IF基準じゃないところを指定してもしょうがないので、これはマストだと思います。それとトラップとスキート各2面を満たしていること。

強化事業実施に当たりまして、斜面を専有しちゃうので、1面1面だと他の利用者が使えないというクレームが発生しないための措置です。あとは、当協会の強化活動に当たり、優先的に使用できること。拠点利用による強化活動計画を円滑にするためということで、正直にお話をすると、伊勢原射撃場は、今までうちの指定だったんですけど、売り上げを下げたくないから、お客さんと強化チーム、お客さんと強化チームって実は交互に撃たしてたんです。これ、優先的な利用に当たらないので、本来NTCの選定理由からいくと、アウトなんです。そういうことがないようにしてくれる射撃場というところを3つ目に挙げてます。あとは、当該射撃場が機能強化を充実させるためのコンソーシアムを構成できること。例えば味の素のナショナルトレーニングセンターがありますけど、あそこは何でいいかっていうと、競技施設は1級品じゃないですか。あとは、栄養士が管理した食事が提供できる。けがをしたら隣のJISSの治療が受けられる。宿泊施設が安価に泊められるということで、既設以外の条件が整ったほうが拠点の機能は強化しますよねっていうことを、スポーツ庁は推進しようとしています。

ですので、射撃場だけよくても駄目で、他も、例えば射場はいいんだけど、宿泊施設が愛知みたいに片道1時間半かかる拠点としてはNGなんです。あとは、アウトドアスポーツだから、けがをすることもあるだろうし、けがした場合にすぐに病院対応ができないであるとか、食事を提供する施設がないであるとか、

そうすると、やはり拠点としては、機能は強化できてませんよねという評価になっちゃうので、そういうところが作れる射撃場が望ましいというのを4つ目にして、公募をかけようということで、今後スポーツ庁の指示を待って手続きを進める予定なんですけど。スポーツ庁のほうが、今、ボールを持ってる状態で、伊勢原射撃場が返上したけれども、今までの補助金を清算しなきゃいけないんです。今までの補助金の清算がまだ未処理の部分があるから、それが終わるまで指定できないと言われてるんです。

不老会長：ただいまの説明で、JOCの進捗状況として報告をさせていただきたいと思います。賛成の方、手を挙げてください。ありがとうございました。

次に審議事項6、事務所掌規程改正について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

大江 HPAD：事務所掌規程というのは、所掌という日本語がちょっと分かりにくいので、事務分掌規程に変えたいと思っています。

ここに定めた事案は、それぞれ決裁及び専決を行う前に、当該委員会等と情報や問題を共有し、必要な関係役員の承認、例えばその委員会が委員長の承認とか担当理事の承認をあらかじめ経なきゃ駄目と。そういうことで、専横を許さないような形で周りとの情報共有して、当該委員会の承認がなかったら決済に回せないような規程にして、専横がもし起きた場合にブレーキ役になっていただけるというふうに考えて、第8条を分かりやすく丁寧に改正させていただきました。あとは、きょう、承認いただければ、4ページ目の付則に追加されることとなります。ですので、あまり大きい規程の変更ではなくて、専横を許さないようにしろというふうなJOCの指導に基づいて、この事務所掌規程を事務分掌規程に基づいて、第8条を丁寧に改正したいというのが提案事項でございます。

不老会長：ただいま事務局よりご説明がありましたけれども、この事務所掌規程案について、改正案について、皆さん方にお諮りをしたいと思いますけれども、賛成の方、手を挙げてください。ありがとうございました。全員賛成ということで、お願いいたします。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。

午後15時00分 閉

2024年10月28日

公益社団法人 日本クレー射撃協会

議

長

不老安正

(会長 不老安正 自筆署名)



議事録署名人

萩野谷 豊光

(監事 萩野谷 豊光 自筆署名)



議事録署名人

坂本 昭一

(監事 坂本 昭一 自筆署名)

